

立命館大学アート・リサーチセンター
文部科学省 国際共同利用・共同研究拠点
「日本文化資源デジタル・アーカイブ国際研究拠点」
2021年度 国際共同研究成果報告書〔研究費配分型〕

2022年 5月 8日 提出

1. 研究課題名	
京都を起点とした染色技術及びデザインのグローバルな展開に関する研究 (Research of Kyoto-based Global Development of Printing Techniques and Designs)	
2. 研究代表者	
氏名 (ふりがな)	所属機関・職名
上田 文(うえだ あや)	関西学院大学非常勤講師、同志社女子大学非常勤講師
3. 研究分担者 (合計: 6名)	
氏名 (ふりがな)	所属機関・職名
並木誠士(なみきせいし)	京都工芸繊維大学美術工芸資料館 館長
青木美保子(あおきみほこ)	京都女子大学 教授
鈴木桂子(すずきけいこ)	衣笠総合研究機構 教授
杉浦未樹(すぎうらみき)	法政大学・教授
山本真紗子 (やまもとまさこ)	日本学術振興会特別研究員(RPD)、立命館大学・授業担当講師
加茂瑞穂(かもみずほ)	立命館大学アート・リサーチセンター学芸員

4. 研究課題の概要 (300字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点分かるように明記してください)
本研究課題では、近代京都を起点として染色産業がどのように国内外へ展開されてきたのか、あるいは影響を受けてきたのかを染色技術やデザインを通じて明らかにする。そのために、学術資料として俎上に上がっていない近代染織史に関連する資料の整理・蓄積を進め、伝統的地場産業と位置付けられてきた京都の染織が実はグローバルな展開—近代以降の西洋技術・デザインの導入だけではなく、戦前から始まるアジア・アフリカへの製品輸出・海外事業展開も含む—をしてきたことを明らかにする。また、研究対象となる染色資料を整理してデータベース構築を進め、近代染織史研究者が研究利用し易いデータベースのあり方について工夫・検討する。更に、当該データベースを活用して染織資料の情報を一元化することを目指す。染色産業の国内外への展開については、特にアフリカンプリント、バティック、ヨーロッパでの機械捺染等の基礎調査とデジタル化を進める。

5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)

1, 展覧会の開催

昨年度に開催予定であった展覧会「キモノからインテリアへー住空間を彩った機械捺染」の開催(6月21日～7月10日、於京都工芸繊維大学美術工芸資料館)、および展覧会図録の作成

2, 資料調査

アレワ紡績株式会社で1960年代から1980年代にかけて生産されたアフリカンプリントの資料調書リストの確認

3, オンライン勉強会の開催

キモノデータベース作成のための勉強会

- ①一般社団法人昭和きもの愛好会より松前章子氏、岡本理趣氏(8月7日)
- ②「BFRI 研究・教育資源アーカイブの構築について」、文化学園大学より近藤尚子先生、中村弥生先生(8月30日)
- ③MCD(民博コスチュームデータベース)プロジェクトについて、国立民族学博物館より高橋晴子先生(1月16日)
- ④近世期染織品反物切本帳のアーカイブについて、石田千尋先生(3月7日)

6. 研究業績 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)

(1) 著書**著書 査読有**

- ・ Miki Sugiura, Japanese Cotton Shirts in Interwar East Africa, in Emi Goto and Chika Obiya eds., Fashion and Norms in Contemporary Asia, NIHU-MEIS series, The Research Institute for Language and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies, (March, 2022)

著書

- ・ 並木誠士編著『美術の教育／教育の美術』(展覧会図録)、京都工芸繊維大学美術工芸資料館、2021年10月
- ・ 青木美保子・上田文「キモノからインテリアへー住空間を彩った機械捺染 -寺田コレクションと蛭川コレクション」展 展覧会図録 2022年2月
- ・ 石上阿希・加茂瑞穂共編『西川祐信『正徳ひな形』—影印・注釈・研究—』、臨川書店、2022年2月、(鈴木桂子・山本真紗子 分担執筆)

(2) 論文**研究論文 査読有**

- ・ 鏡川悠介、久保山哲二、加茂瑞穂、前田英作「伝統文様アノテーション自動化のための自然画像とフラクタル画像による事前学習」『じんもんこん 2021 論文集』pp.260-267、情報処理学会、2021年12月

研究論文 査読無

- ・ 青木美保子「京都女子大学の歴史と裁縫教育」pp.29-36、「伝統染織産業の近代化— 明治初期の京都府の取り組みとその後」pp.58-59、展覧会図録『美術の教育／教育の美術』、京都工芸繊維大学美術工芸資料館、2021年10月

解説

- ・ 加茂瑞穂 解説「美術館・博物館に収蔵される染織品—個性豊かな収蔵品と大学ミュージアムの関わり」pp.93-97、『繊維製品消費科学』63(2)繊維製品消費科学会、2022年2月
- ・ 加茂瑞穂「シリーズ「美術館・博物館に収蔵される染織品」 シリーズ開始にあたって」p.92、『繊維製品消費科学』63(2)、繊維製品消費科学会、2022年2月

(3) 研究発表等**研究発表**

- ・ 山本真紗子「明治期の東山の変化と美術商の活動」京都大学人文科学研究所・第33回「近代京都と文化」研究班、(オンライン発表)、2021年10月23日
- ・ 青木美保子「伝統染織資料・技術の保存、復元、活用」日本家政学会 第73回大会 活性化企画 服飾史・服飾美学部会公開シンポジウム「近代日本生活文化財の保存と活用」、(オンライン発表)、2021年5月30日
- ・ Aki Ishigami, Mizuho Kamo, and Michelle Kuhn Hirano “Deciphering Edo Period Designs: The Social and Cultural Context of Early Modern and Modern Kimono Pattern Books”, 16th International Conference of the European Association for Japanese Studies, 2021年8月26日(国際学会発表 査読有、パネル発表・オンライン)
- ・ Keiko Suzuki, ““Kimonos” and their Inspired Products as Embodiments of Global Entanglement,” パネル

Fashioning 'misunderstanding': Transcultural Entanglements and the Material Culture of Fashion, The Association for Asian Studies 2022 Annual Conference, Hawaii, USA, 2022年3月26日。(国際学会発表
査読有)

(4) 主催したシンポジウム・研究会等

シンポジウム

- ・ 「小袖をめぐる言葉と形—西川祐信『正徳ひな形』を読む—」国際日本文化研究センター・オンライン、2022年3月、97名、国際日本文化研究センター

(5) その他研究活動（報道発表や講演会等）

講演

- ・ 青木美保子「キモノ界のファッションリーダー高島屋 百選会-創出される流行 その仕組みを読み解く-」、高島屋創業190周年記念展「キモノ★ア・ラ・モード」イベント講演、高島屋史料館、2021年9月26日
- ・ Keiko Suzuki, "Designs and their Dissemination in Japan and Asia," International Workshop "Designing Modern Japan: Visualizing the Modern Experience in Japan and Asia," Yale-NUS (National University of Singapore) College, Singapore, 2021年12月2日。(基調講演)
- ・ 青木美保子「明治末期・大正期・昭和初期のキモノ-百貨店による流行の創出に注目して-」、調査報告会「近代型友禅の表と裏—絵刷調査を通して」、千總文化研究所、2022年3月28日(基調講演)

(6) 受賞学術賞

受賞

- ・ 並木誠士・令和3年京都市芸術振興賞(学術(美術史・美術館学))2022年1月21日

(7) 科学研究費助成事業

科研費

- ・ 「京都の伝統的美術工芸の近代化に関する総合的研究」基盤研究(B)、2020~2022年度(代表:並木誠士、分担:青木美保子・加茂瑞穂・山本真紗子)
- ・ 「近代の美術普及史—百貨店美術部と美術商を中心に—」特別研究員奨励費、2021~2023年度、(代表:山本真紗子)
- ・ 「「きもの」文化から視るグローバル・ヒストリー—染色技術・デザイン・製品を中心に」、基盤研究(C)、2021年4月—2025年3月、代表:鈴木桂子
- ・ 「染色デザインの世界的連環—「きもの」文化を中心に」、基盤研究(C)、2018年4月—2023年3月、代表:鈴木桂子

(8) 競争的資金等（科研費を除く）

競争的資金

- ・ 「グローバル・ヒストリーにおけるオランダのテキスタイル—貿易・デザイン・労働の総合接続、1600-2000」、立命館大学研究高度化推進制度・研究成果国際発信プログラム、2020年4月—2022年3月、代表:鈴木桂子

(9) その他

展覧会

- ・ 青木美保子・上田文「キモノからインテリアへ—住空間を彩った機械捺染 -寺田コレクションと蛭川コレクション」展 京都工芸繊維大学美術工芸資料館(2021年6月21日~7月10日)
- ・ 武庫川女子大学附属総合ミュージアム・加茂瑞穂「武庫女とスポーツ—1939~1970」展 武庫川女子大学附属総合ミュージアム(2021年6月21日~7月28日)